



一人ひとりのチャレンジ、ECOアクション

環境問題の解決は、政府や企業といったセクターが「いつかどこかでやってくれる」ものではなく、私たち一人ひとりの取組が大切になる。個人の取組は一見小さく思えても、ちょっとしたECOアクションが積み重なれば、大きな力となっていく。

例えば、無駄なエネルギーを使わないようにしてみる。せっかく省エネ型の製品を購入しても、エネルギーを無駄にする使い方を繰り返しては意味がなくなってしまいます。冷房の設定温度を28℃にするクールビズや、暖房の設定温度を20℃にするウォームビズを実践したり、買い物の際はマイバッグを持参して、過剰包装を断ったり……ささやかなところから始めてみてはどうだろうか。

エアコン、テレビ、冷蔵庫、自動車など、私たちの生活を便利してくれるさまざまな製品を選ぶときも、エネルギー効率の高い製品をなるべく選ぶようにする。買い物の時もそんな選択が、新たな常識になりつつある。

また、住まいの面でも、新築時やリフォーム時に、外壁等の断熱や窓の気密性に配慮すると、エアコン使用による負荷が下がり、CO₂削減につながる。

環境省でも「チャレンジ25キャンペーン」をスタートさせ、オフィスや家庭などにおいて実践できるCO₂削減に向けた行動を、広く国民に呼びかけている。

市民の力で、地域から変えていこう

個人の環境意識が高まり、互いに連携することでさらに大きな効果を上げている例が、日本でも相次いで登場している。一人ひとりの力がNPOに集まり、さらには行政や企業と連携し、新たな社会システムづくりの芽が育っているのだ。

例えば、ある地域では、自治体とNPOが協働してファンドを設立し幅広く出資を募り、太陽光発電システムを設置している。発電した電気を売った収入をもとに配当するなど、行政だけに頼らず、市民自らの手で地域を、そして地球環境をより良くする試みが軌道に乗っている。

また、別の地域では、NPOが中心となって、ごみの削減のために地

Key Word チャレンジ25キャンペーン

政府では、地球と日本の環境を守り未来の子どもたちに引き継いでいくため、「チャレンジ25」と名付け、あらゆる政策を総動員して地球温暖化防止の対策を推進することとしており、そのための温暖化防止のための国民的運動を、「チャレンジ25キャンペーン」として2010年1月より、新たに展開している。

これまでの地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」から、よりCO₂削減に向けた運動へと生まれ変わり展開するものであり、オフィスや家庭などにおいて実践できるCO₂削減に向けた具体的な行動を「6つのチャレンジ」として提案し、その行動の実践を広く国民の皆様によびかけている。

域を巻き込み、「リデュース」「リユース」に特化した新たなライフスタイル「2R」を提唱している。コンビニなどで、飲料の中身だけを販売する流通モデルを提案し、市民にマイボトルの活用を呼びかけている。

こうした草の根レベルから環境を変えていこうとする市民の活動は、集まれば大きな力となっていく。環境省でも、「地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）」（国連大学と共同運営）や「地方環境パートナーシップオフィス」を設置し、行政・企業・NPO等をつなぐ事業を展開し、積極的に支援を行っている。

地球環境問題は、「どこか遠く」で起こっていることではなく、私たち一人ひとりに深く関係している問題。意識のエコシフトと、アクションへの歩みは、いま全国で着実に進んでいるのだ。

Challenge 4

暮らしが変わる、地球が変わる。

政府や企業だけじゃない、私たち一人ひとりの暮らしを変えていかなければ……。一見、ささいな変化でも、多くの人がアクションを起こせば、持続可能な社会へのチェンジは、きっと可能はず。そんな身近なエコシフトは、すでに始まっています。